



Formula NIPPON '12

モータースポーツのリーディングペーパー

購読のお申し込みは
0120-026-999
0120-026-993

1ヶ月 2,955円 1部売り 120円

東京中日スポーツ

2012 フォーミュラ・ニッポン年間スケジュール

Rd.1 4/14,15 鈴鹿サーキット	Rd.5 8/4,5 ツインリンクもてぎ
Rd.2 5/12,13 ツインリンクもてぎ	Rd.6 9/22,23 スポーツランドSUGO
Rd.3 5/26,27 オートポリス	Rd.7 11/3,4 鈴鹿サーキット
Rd.4 7/14,15 富士スピードウェイ	SPL 11/16~18 FUJI SPRINT CUP

本紙への広告掲載のお問合せは:
JRP 株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
03-3237-0131 http://www.f-nippon.co.jp

Support races result (top10)

Honda CR-Z 10リッターチャレンジ 第1戦 決勝結果

Pos	No	Driver	Car	Time/Gap
1	13	大井 貴之	REV SPEED CR-Z	23'24.468
2	8	佐藤 孝洋	Honda Style CR-Z	18.316
3	7	大井 信	AUTO SPORTS CR-Z	20.054
4	12	宇井 健樹	HondaCars愛知 下地店 CR-Z	22.104
5	2	赤田 輝	Daytona CR-Z	23.331
6	1	清水 和夫	Honda CR-Z S&E Prg. CR-Z	30.005
7	5	加藤 英昭	ホリデーオート CR-Z	30.209
8	11	ヒールレ 北川	レースアナウンサー CR-Z	36.426
9	16	前嶋 浩一郎	HondaCars名東名東店 CR-Z	37.280
10	4	岡本 幸一郎	Car Watch CR-Z	38.535

周回:8周/天候:晴れ/コースドライ/出走:16分

全日本フォーミュラ3 第1戦 決勝結果

Pos	No	Driver	Car	Time/Gap
1	4	平川 亮	広島トヨベントF312	23'02.491
2	1	山内 英輝	B-MAX-F312	1.809
3	8	野尻 龍紀	HFPD RACING F312	4.631
4	23	佐々木 大樹	S Road NDDP F3	12.557
5	37	Richard Bradley	PETRONAS TOM'S F312	14.045
6	2	Rafael Suzuki	MAD CROC TODA F308	16.359
7	7	平塚 一輝	HFPD RACING F307	16.807
8	77	藤川 良平	アキゾウF306	35.094
9	13	吉田 基良	B-MAX F306	1'39.700
10	3	藤田 龍博	C-FACTORY	1'30.342

周回:12周/天候:晴れ/コースドライ/出走:14分

Official Practice Time **Race start: 12:40**

Pos.	No.	Rider	Team	Time
1	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	2'07.255
2	634	高橋 巧	MuSASHI RT/ハルクプロ	2'07.286
3	21	中須賀 克行	ヤマハYSPレーシングチーム	2'07.490
4	87	柳川 明	TEAM GREEN	2'08.413
5	53	津田 拓也	ヨシムラスキレーシングチーム	2'08.784
6	104	山口 辰也	TOHO Racing with MORIWAKI	2'08.907
7	57	安田 毅史	Honda鈴鹿レーシングチーム	2'09.813
8	9	徳留 和樹	Honda鈴鹿レーシングチーム	2'10.047
9	6	出口 修	エヴァRT式号機トリックスター-FRTR	2'10.225
10	01	芹沢 太麻樹	エヴァRT初号機トリックスター-FRTR	2'11.325
11	390	酒井 大作	Team Motorrad39	2'11.334
12	7	東村 伊佐三	RS-ITOH&ASIA	2'11.418
13	62	辻村 猛	テルル & イー・モバイル★KoharaRT	2'11.546
14	32	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	2'11.935
15	8	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	2'12.124
16	11	清水 郁巳	ホンダドリムRT高崎 B'WISE RT	2'12.741
17	37	鈴木 大五郎	BKRS☆ファクトリーヒロ	2'12.942
18	15	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	2'13.074
19	55	須磨 貞仁	CONFIA HMF	2'13.183
20	19	片平 亮輔	8810 Rwith MCR	2'13.631
21	33	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	2'13.648
22	36	西中 綱	Honda DREAM RT 和歌山	2'13.938
23	35	原田 洋孝	RSガレージハラダ姫路	2'13.956
24	17	吉田 光弘	Honda緑陽会熊本レーシング	2'14.008
25	66	大内田 実	DOG FISHオーテックスズカ	2'14.634
26	27	村上 雅彦	チームムラカミ & ウッドストック	2'14.655
27	39	田村 武士	テイクアップOIRF	2'14.763
28	46	西村 一之	磐田レーシングファミリー	2'15.500
29	45	北島 大和	磐田レーシングファミリー	2'16.541
30	22	澤村 元章	磐田レーシングファミリー	2'16.656
31	56	今津 比呂志	プラスワン MCRT	2'16.894
32	74	北折 淳	Honda 緑陽会熊本レーシング	2'17.606
33	85	安藤 元之	Honda Q遊会明和レーシング	2'17.732
34	112	栗林 剛	Honda EGレーシング	2'17.854
35	73	団 和仁	BANNER RACING	2'17.899
36	99	吉田 和憲	救急救命戦隊licu RT	2'18.535
37	65	和多瀬 邦治	スピードハート & オーテックス鈴鹿	2'18.929
38	76	成守 貞文		2'19.001
39	70	権陸 廉	Jr's Club	2'19.168
40	314	三木 章宏	Jr's Club	2'19.393
41	52	隣 淳二	T-モトキッズ&ZEALR	2'19.910
42	51	樋口 幸博	T-モトキッズ ネルガル獵RT	2'20.062
以上予選通過選手:				
43	77	金山 和弘	Team橋本組・サーフ	2'26.130

予選通過基準タイム(110%): 2'20.077%

2011 Formula NIPPON 総集編DVD絶賛発売中

初参戦の若きF1経験者・中嶋一貴が刺激になったか、実力がありながら「無冠の帝王」に甘んじていたアンドレ・ロッテラーがついに覚醒。山本尚貴や塚越広大といった若手の台頭やロッテラーと前チャンピオンのオリベ이라、車載天・小暮卓史との激闘など、名場面の連続だった2011年フォーミュラ・ニッポンをここに再現!! さらにJAF GPでのデットヒート、スペシャルインタビューなども収録。

お求めは、J SPORTSオンラインショップ (http://shop.jsports.co.jp/)、その他取扱店で。定価3,990円(税込)

J SPORTS

J SPORTSは今年もFormula NIPPONを全戦放映。サーキットに実場できないファンに、レースの臨場感をお届けします。

●フォーミュラ・ニッポン2012 第1戦 決勝
決勝 4/15(日) 13:45~17:00 J SPORTS3(生放送)
決勝再放送 4/16(月) 19:00~21:30 J SPORTS3
4/16(月) 25:00~27:30 J SPORTS1 ほかにリピート放送あり

●フォーミュラ・ニッポンのから騒ぎ
フォーミュラ・ニッポンの将来を担うサムライ達が集結し、フォーミュラ・ニッポンについて「ざっくばらん」に語る。出演:中嶋一貴/平手晃平/小暮卓史/塚越広大
4/17(火) 27:45~28:00 J SPORTS1 ほかにリピート放送あり

○番組ホームページ: http://www.jsports.co.jp/motor/formula_nippon/

BSフジ BSフジ

決勝日の翌連日曜日(再放送は翌土曜日)にレースダイジェストを放映します。

●フォーミュラ・ニッポン2012 第1戦 鈴鹿サーキット
4/22(金) 18:00~18:55[再放送:4/28(土) 13:00~13:55]
○番組ホームページ: http://www.bs-fuji.tv/top/pub/formula2012.html

GyaO! (オンデマンド放送)

大会終了後14日後、24:00よりオンデマンド配信
http://www.yahoo.co.jp/

BS12 Twelliv (トゥエルビ)は全国無料放送!!
「MF」全日本ロードレース選手権第2戦 鈴鹿2&4レース」をダイジェストでお届け。

○番組ホームページ: http://www.twelliv.co.jp/program/sports/index.html#spo60

Formula NIPPON Starting Grid **Race start: 14:30**

Pos.	No.	Rider	Team	Time
40	P.P.	伊沢 拓也	DOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR12E	01:1'41.002 02:1'40.266 03:1'39.583
41	2	塚越 広大	DOCOMO TEAM DANDELION RACING Honda HR12E	01:1'40.293 02:1'40.004 03:1'39.661
2	3	中嶋 一貴	PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K	01:1'40.444 02:1'39.988 03:1'39.705
7	4	大嶋 和也	Team LeMans TOYOTA RV8K	01:1'40.675 02:1'40.077 03:1'40.362
20	5	松田 次生	TEAM IMPUL TOYOTA RV8K	01:1'40.993 02:1'40.289 03:1'40.363
1	6	アンドレ・ロッテラー	PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K	01:1'40.645 02:1'40.268 03:1'40.520
19	7	ジョアオバ・ロドリゲス	TEAM IMPUL TOYOTA RV8K	01:1'41.910 02:1'40.258 03:1'46.777
16	8	山本 尚貴	TEAM 無限 HONDA HR12E	01:1'40.343 02:1'39.603 03:1'47.882
8	9	ロイック・デュバル	Team KYGNUS SUNOCO TOYOTA RV8K	01:1'40.700 02:1'40.346
39	10	国本 雄資	Project μ/ceromo-INGING TOYOTA RV8K	01:1'41.205 02:1'40.397
32	11	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING Honda HR12E	01:1'41.705 02:1'40.835
38	12	平手 晃平	Project μ/ceromo-INGING TOYOTA RV8K	01:1'41.408 02:1'40.903
3	13	安田 裕信	KONDO RACING TOYOTA RV8K	01:1'41.214 02:1'40.963
10	14	金石 年弘	HP REAL RACING Honda HR12E	01:1'42.294
31	15	中嶋 大祐	NAKAJIMA RACING HONDA HR12E	01:1'42.436
62	16	嵯峨 宏紀	TOCHIGI Le Beausset Motorsports TOYOTA RV8K	01:1'43.110
18	17	折目 遼	SGC by KCMG TOYOTA RV8K	01:1'44.176

予選日:2012年4月14日(土) 出走17台
Q1:天候:晴/路面:ウェットドライ
Q2:天候:晴/路面:ウェットドライ
Q3:天候:晴/路面:ウェットドライ
予選通過基準タイム:1'47.313 / 01/107%

※本ウェブは公式予選結果を元に予選通過順で作成したもので、主催者による公式発表とはおぼつかない。

予選速報電子版
「Qualifying News Flash Plus」
「Qualifying News Flash (予選速報)」紙面では伝えきれないインフォメーションは、スマートフォンやタブレットより全ドライバーの写真、マシンの写真、動画などのコンテンツ、最新のサーキットインフォメーションなどを、決勝日の朝、アップします。

アンドロイドおよびiPhone対応。
右のQRコードからアクセス!

※コンテンツ内容は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

フォーミュラ・ニッポン 公式ウェブサイト
http://www.f-nippon.co.jp

最新ニュースは随時更新。フォーミュラ・ニッポンのことをさらに深く理解できる特集記事や、動画など、レースワークだけでなく楽しめるコンテンツが満載です。

QUALIFYING NEWS FLASH Rd. 1

予選速報 2012 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第1戦 2012年4月15日(日) 鈴鹿サーキット www.f-nippon.co.jp

Series Partner: HONDA TOYOTA
Series Supporter: BRIDGESTONE
Series Supporter: 観光庁 Japan Tourism Agency
Take Free ご自由におとりください

初勝利を目指しシビアな戦いに!!
伊沢拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING) が
初ポールポジション!
僚友・塚越が2位、一貴が3位。ロッテラー、デ・オリベ이라が中団から逆転を狙う

4月14日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン開幕戦の公式予選が、鈴鹿サーキット(三重県)で行われ、No.40 伊沢拓也(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)が、自身初となるポールポジションを獲得した。

塚越と山本、ホンダの若手同士が接戦を演じる

朝のフリー走行は雨だったが、昼頃から日が射し始める。路面はセミアツ状態の朝、午後2時からノックアウト予選のQ1セッションが開始。20分間のQ1セッションが開始されると、ほとんどのドライバーは、スリックタイヤを装着してコースイン。No.32 小暮卓史(NAKAJIMA RACING)ら3人だけは、レインタイヤでコースイン。だが、1周で、スリックに履き替える。路面が徐々に乾いていき、どのマシンも周回するたびにタイムアップ。残り7分過ぎには、ほとんどのドライバーが2セット目のタイヤを投入する。その中、チェッカーと同時にトップタイムをマークしたのは、No.41 塚越広大(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)。これにNo.16 山本尚貴(Team 無限)、No.2 中嶋一貴(PETRONAS TEAM TOM'S)、No.1 アンドレ・ロッテラー(PETRONAS TEAM TOM'S)、No.7 大嶋和也(Team LeMans)、No.8 ロイック・デュバル(Team KYGNUS SUNOCO)と続く。一方、敗退したのは、No.10 金石年弘(HP REAL RACING)、No.31 中嶋大祐(NAKAJIMA RACING)、No.62 嵯峨宏紀(TOCHIGI Le Beausset Motorsports)、No.18 折目遼(SGC by KCMG)だった。

10分後に、7分間のQ2が開始。すぐに全車が、

ニュートイヤでコースインした。タイヤを2周温めてからタイムアタックに入ると、まずトップに立ったのは塚越。その後、No.19 ジョアオバ・オリベ이라(Team IMPUL)、中嶋一貴からトップタイムを書き換えて行く。そして、チェッカー目前に唯一人、1分39秒台をマークしたのは山本だった。以下、中嶋、アタック2周目にタイムを刻んだ塚越、大嶋、デ・オリベ이라、伊沢と続く。ここで敗退したのは、デュバル、No.39 国本雄資(Project μ/ceromo-INGING)、小暮、No.38 平手晃平(Project μ/ceromo-INGING)、No.3 安田裕信(KONDO RACING)だった。

山本、デ・オリベ이라が痛恨のスピンを喫す

Q3(7分間)が始まったのは、午後2時47分。シグナルがグリーンになると真っ先にコースへと入ったのは、中嶋一貴とロッテラー。最初にアタックに入ったロッテラーは、デグナー2つ目の入り口でテールが流れて、若干コースからはみ出し、仕切り直しになる。これに続いてアタックをしていた中嶋一貴は、1分39秒991をマーク。まずはトッ

プに立った。その直後、2コーナー立ち上がりで、山本がスピン、クラッシュ。残り時間1分05秒という時点で赤旗、中断となった。これが一貴、ロッテラー以外はアタックできていない状況に。16号車を回収して、残り時間2分半ということで再開。

山本を除く7人はピットオープンと同時にコースに入り、1周のウォームアップで、1周限りのアタックに入る。まず中嶋一貴が、赤旗前の自己ベストを更新してトップに。これを上回ったのが、伊沢だ。同じ頃、スプーン2つ目でデ・オリベ이라がスピン。彼の後ろでアタックしていた塚越は、途中で伊沢を上回るペースだったが、このスピンの影響も受け、タイムは2番手に留まる。これでDOCOMO TEAM DANDELION RACINGはフロントロウ独占。初ポールポジションを獲得した伊沢は、ピットロードに戻り、マシンを下りると全身で嬉しさを爆発させた。チャンピオン経験者の最上位は、なんとNo.20 松田次生(Team IMPUL)の5番手で、勝利経験の少ない者たちが上位を占める波乱の予選となった。

加賀山就臣が今シーズン初ポールポジションを獲得!
ワイルドなライディングを見せる加賀山就臣がポールポジション。2番手に高橋巧がつけ、開幕戦のウィナー中須賀克行が3番手。

JSB1000 予選速報は中面です!

自分の壁を乗り越えられたような気がします



参戦5年目ですが、2位は何度かあってもポールポジションは獲れてなかったんです。自分の中の壁だと思っていましたが、今回うまく自分の壁を乗り越えられたような気がします。Q1では最後にニュータイヤを履きましたが、周りは2周アタックしてタイムを出したようで、逆に僕はアタック1周しかしてませんでした。Q2はクルマのバランスがアンダーステア気味で、それをQ3に向けて直したんです。うまくハマれば上位にいけるかなという思いがありました。思っていたよりもタイムが出たな、というのが正直なところ。アタック中の赤旗のときはセクター2まで走っていて、そのまま走っていればポールを獲得するくらいのセクタータイムだったので、(中断時は)アタックしたかったと思いました。なので、再開後はタイヤを使ったか使っていないというようなことは意識せずに、走ることにしました。

春の嵐か、新風の季節が訪れたのか!?

このままベテラン勢が黙っているわけではない。本当の勝負はこれからだ!!



オリベイヤ選手がスピンした影響を受けてしまった

順調に金曜のテストから予選までやってきていました。ただ予選のQ2で思うようなクルマでなかったため、Q3に向けて(セットを)変えたんですが、僕としては間合いの取り方がすごく悪くなってしまっただけ。結局、赤旗後の予選再開のときに、アウ

トラップで(ジョアオハオロデ)オリベイヤ選手に抜かれてしまい、そのあとスプーンでオリベイヤ選手がスピンした影響を少なからずとも受けてしまったということがあります。それが結果として一番のミスになってしまったと思います。



赤旗出るまで完璧なアタックでした

もともと鈴鹿は苦手意識が若干あったので、シーズンオフにいろいろなセットを試したり、違うクルマで走ったりすることでまとまってきた成果が出てきたように思います。予選ではQ1、Q2と濡れた路面のままでも速く走ってきただけでセットもほとんど

変えずにいい感じでした。赤旗出るまで完璧なアタックでした。ノーミスで行けたんですよ。ただ、トップ2人のタイムには届かなかったかな。運もあると思いますが、今までにない仕上がりのデータも取れているので、決勝が楽しみです。



出せるものは出せた。前の2台が速かったということ

予選までを振り返ると手応えは悪くありません。ただ昨日良かったことがそのまま通用するとは思ってはなかったんですが、走り出しからクルマの調子が路面コンディションに合っている感じだったので、期待をもってQ3に挑みました。(トップ

タイムを出した後)赤旗が出ましたが、そのあとタイムを更新できたので、ある程度出せるものは出せたと思います。それよりも前の2台が速かったということです。大事な決勝レースなので、これからその準備をしていきたいです。



まだまだ負けると感じるものがある

金曜の練習ではうまく乗れてなかったんですが、予選日朝になって自分のリズムで乗れるようになりました。一方で、予選ではQ2の最後ガス欠になって、焦りました。ピットに戻るのにすごく時間かかりました。Q3は赤旗前にいいラップだったかといえ

ばそうじゃないですね。フォーミュラの難しさ、緊迫感、GTとは異なるものだからね。言い訳になるかもしれませんが、プランクというか2年開いた分、最後のツメという部分でまだまだ負けると自分の中に感じるものがありました。

伊沢は得意のスタートダッシュなるか!?

中団からのデ・オリベイヤらの追い上げ、ピット作戦にも注意せよ!!

ホンダエンジンユーザーの伊沢拓也と塚越広大が、フロントロウを独占するという結果になった予選。今日の決勝レースでは、この2人のいずれかが、念願の初優勝を果たすことになるのだろうか?そこでカギとなるのは、スタート。ホンダの若手ドライバーたちの中で、最もスタートが上手く、自信を持っているのは伊沢だ。ポールポジションの重圧に負けることなく、いつも通りのスタートを切ることができれば、伊沢初優勝のチャンスは大きく開かれるだろう。

しかし、そう一筋縄でいかないのがフォーミュラニッポンだ。彼ら若手の後方には、経験豊富なドライバーたちがズラリ。予選5番手の松田次生や6番手のロッテラー、7番手のデ・オリベイヤなどは、スタートの上手さにも定評があり、ポジションアップを苦にしない。彼らはレース序盤、タイヤが冷えている状況でのベースが早く、ここでオーバーテイクが生まれるケースも考えられるだろう。そして今年はレース距離が220kmから250km伸びたことに加え、各マシンに搭載されている燃料タ

ンクの容量が小さくなり、満タンでスタートしてもゴールまで無給油では走り切れない。このため作戦面でも変化が出てくるはず。グリッドに着いた段階で、どれだけの燃料を積んでいるのか、中にはかなり軽めの燃料にして、スタートでのジャンプアップを狙ってくるチームもあるかも知れない。またタイヤ交換の義務付けが撤廃。その部分でもチームの判断が分かれ



14日には、開幕戦恒例の全ドライバーが集まる記念撮影も行われた。選手にとっても憧れの第1戦。果たして栄冠を掴むのは、この中の誰なのだろうか?

る可能性がある。中には奇抜な作戦を取ってくるチームが出てくる場合も。そのあたりにも注目して、白熱のレースを楽しんでいただきたい。

新シリーズ名称を考えて86かCR-Zを手に入れよう!!

グローバル化を見据え、2013年からの名称を公募中

全日本選手権フォーミュラ・ニッポンを運営する日本レースプロモーションは、昨年よりアジア地域でのレース開催の可能性について、アジア各国のサーキットと交渉を進めている。そして、今後のさらなるグローバル展開の可能性を視野に入れ、2013年より新たなシリーズ・スタイルを使用すると、開幕戦鈴鹿で白井裕JRP社長から発表が

あった。さらに、この新名称はファンをはじめ広く公募し、新名称として採用された応募者1名(複数の場合は抽選)に、賞典として2013年のシーズンパドックパス(2名1組)、副賞としてトヨタ86またはホンダCR-Zのどちらかが希望するクルマを贈呈する。

応募期間は開幕戦の決勝日4月15日から第2戦もぎの決勝日5月13日まで。新名称と当選者の発表は、第5戦もぎの開催中の8月5日(日)。賞品は富士スプリントカップ開催の富士スピードウェイ(11月18日)で贈呈される。応募方法は、フォーミュラニッポンの公式ウェブサイト、携帯サイトで確認してほしい。なお、1人でいくつも考えて送ってもOKということなので、思いつきから深い意味合いまでいろいろ考え、そして話題のスポーティカーの鍵を手に入れてほしい。

8:25 > 8:55	全日本ロードレース(JSB1000)ウォームアップ走行
9:10 > 9:40	Formula NIPPONフリー走行
9:40 > 9:45	Formula NIPPONスタート練習
10:20 >	F3 第2戦 決勝(17周)
11:10 > 12:00	PIT WALK
12:40 >	全日本ロードレース(JSB1000)決勝(15周)
14:30 >	Formula NIPPON 第1戦 決勝(43周)

Team Pit

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

1st Corner Pit Road

2012 MFJ SUPERBIKE EXPRESS Round 2 SUZUKA 2&4 RACE

2 QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

SUPERBIKE EXPRESS--

Extra, Expert and EXtreme

波乱の予選を制した加賀山就臣が今季初ポール! 開幕戦のリベンジを果たしたい高橋巧

虎視眈々と2連勝を狙う中須賀克行

JSB 1000

MFJ SUPERBIKE

全日本ロードレース選手権第2戦は、4輪のフォーミュラ・ニッポンと国内最高峰同士の競演となる鈴鹿2&4レース。開幕戦ツインリンクもぎで負傷したV2チャンピオンの秋吉耕佑は、今回も欠場を余儀なくされゼッケン1不在のレースとなる。事前テストがなく迎えたレースウィーク初日は、高橋巧がトップタイムをマークし、中須賀克行、加賀山就臣と僅差で続いた。土曜日に行われた公式予選は、波乱の展開となった。雨は止んだもののレインコンディションでセッションはスタートしたが、開始直後に2輪専用シケインで転倒者があり、マシンからはオイルがコース上に出でしまう。これが広範囲だったため、その処理に時間がかかり、このセッションはキャンセルされ予定からは大幅に遅れて30分間の計時予選で争われることになった。

柳川が転倒し、酒井もマシンにダメージを受けピットに戻る。柳川は幸い大きなケガはなく走ってピットに戻りスベアマシンで再びコースに復帰した。セッション終盤、少し早いタイミングで加賀山がタイムを出し、リーダーボードのトップに立つ。高橋もタイムアタックに入るが、シケインへのブレーキングでニュートラルに入ってしまうタイムロス。加賀山が今シーズン初ポールポジションを獲得した。「ライダー自身はもちろん、チームもダンロップさんも、開幕戦ツインリンクもぎの反省をしたので同じことは繰り返さない。Team KAGAYAMAも2年目を迎え、ダンロップタイヤになるなど大きく変わった部分もありますが、みんなやる気に溢れているし、いい空気が流れているのでメチャクチャ楽しいですよ。全力で15周を戦います!」と加賀山。一方、僅差で2番手となった高橋は、「開幕戦に比べれば、事前テストもありませんでしたし、仕上がりは、まだまだですけれど、予選でよくなった部分は分かっているので、決勝で勝てるように頑張ります。前回は、最後に抜かれてしまい悔しかったので、今回は僕が最後に前にいけるようにしたいですね」と自信をのぞかせる。3番手の

中須賀は、「時間のない中では、いいタイムが出たと思います。今シーズンからブリヂストンタイヤになって、まだまだマシンの仕上がりは60%というところなので、僕自身がどう合わせられるかがカギですね。そう簡単にはいかないと思います。開幕戦もぎの反省を活かしたレースをします。と2番手の高橋巧

マシンの仕上がりがすばますのタイムと言う中須賀克行が3番手

この時間には、青空が広がり、ほぼドライコンディションでのタイムアタックとなった。ゼッケン71の加賀山を先頭に43台のマシンがコースイン。この加賀山に酒井大作、柳川明、出口修、中須賀と続いていたが、ダンロップコーナーで酒井が振られ、その後には柳川が接



応援してくれているたくさんの方のためにも、明日はこのポジションをキープしたい、と語ったポールポジションの加賀山就臣

触。柳川が転倒し、酒井もマシンにダメージを受けピットに戻る。柳川は幸い大きなケガはなく走ってピットに戻りスベアマシンで再びコースに復帰した。セッション終盤、少し早いタイミングで加賀山がタイムを出し、リーダーボードのトップに立つ。高橋もタイムアタックに入るが、シケインへのブレーキングでニュートラルに入ってしまうタイムロス。加賀山が今シーズン初ポールポジションを獲得した。「ライダー自身はもちろん、チームもダンロップさんも、開幕戦ツインリンクもぎの反省をしたので同じことは繰り返さない。Team KAGAYAMAも2年目を迎え、ダンロップタイヤになるなど大きく変わった部分もありますが、みんなやる気に溢れているし、いい空気が流れているのでメチャクチャ楽しいですよ。全力で15周を戦います!」と加賀山。一方、僅差で2番手となった高橋は、「開幕戦に比べれば、事前テストもありませんでしたし、仕上がりは、まだまだですけれど、予選でよくなった部分は分かっているので、決勝で勝てるように頑張ります。前回は、最後に抜かれてしまい悔しかったので、今回は僕が最後に前にいけるようにしたいですね」と自信をのぞかせる。3番手の

POLE POSITION INTERVIEW

#71 加賀山 就臣 Team KAGAYAMA



「30分という短いセッションの中を、エントリーしている全員で走るのでクリアラップを取ることは難しい状況だったので、コースインして2、3周目なら、それなりのタイムを出せると思っていました。今年は、Team KAGAYAMAとして2年目となりますが、タイヤを始め、いろいろ体制が変わりました。本当に多くの方が応援してくれているし、それがモチベーションになっています。その想いのおかげでポールポジションが獲れましたし、決勝でも予選と同じ場所にいられるように全力で頑張るだけです。僕はチャンジャーですからね!」



開幕戦もぎの反省を活かしたレースをします。と2番手の高橋巧